

事務事業名	コミュニティ指導員配置事業				☒ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連		
政策名	総合計画 04	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり		所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
施策名	計画 21	生涯学習の推進		所属係	生涯学習班	課長名	野本 立一
基本事業名	体系 79	生涯学習団体やスポーツ団体の組織化の推進		担当者名	合志 新一	電話番号 (内線)	096-242-1190 2421
予算科目	会計 01	款 10	項 05	目 01	事業	社会教育総務費	
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返		☐ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 ↳ (開始年度 平成7 年度 ~) ↳ (年度 ~ 年度)				
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位:千円)			
(事業の内容) 生涯学習の振興を図るため、コミュニティ指導員6名を配置する。 (業務の内容) 旧西合志地域のコミュニティ単位での各種事業を企画立案し、地域の総合的な公民館活動の振興にあたる。 (予算の内訳) 報酬(85,500円×12ヶ月×6名)				総 費 入 量	財 源 内 訳	国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源	
					事業費計 (A)	0	
					人 件 費	正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計 (B)	0
					トータルコスト(A)+(B)	0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

18年度実績(18年度に行った主な活動)

①黒石・中央・野々島・合生の各コミュニティに各1名、須屋コミュニティに2名を配置した。
②各指導員は、コミュニティ活動の企画立案、各講座への指導に当たった。

19年度計画(19年度に計画している主な活動)

18年度と同じ

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

市民(各コミュニティ活動参加者)

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

各コミュニティ活動に参加する市民が、よりよい活動が出来るようになり、参加者が増えていく。

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

- ・学習やスポーツに取り組む仲間ができる
- ・学習やスポーツリーダーになる

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 指導助言のための勤務日数	日
イ	
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 人口	人
イ	
ウ	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア よりよい活動が出来るようになった市民の数	人
イ	
ウ	

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 活動している生涯学習・スポーツ団体数	人
イ	
ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移

				単位	16年度 (実績)	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度 (目標)	21年度 (目標)	年度 (最終目標)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			都道府県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円	5,130	5,130	6,156	6,156	6,156	6,156	6,156
			事業費計 (A)	千円	5,130	5,130	6,156	6,156	6,156	6,156	6,156
	人件費	正規職員従事人数	人	5	5	5	5	5	5	5	
		延べ業務時間	時間	180	180	180	180	180	180	180	
		人件費計 (B)	千円	450	450	715	715	715	715	715	
		トータルコスト(A)+(B)	千円	5,580	5,580	6,871	6,871	6,871	6,871	6,871	
活動指標			ア イ ウ	日	900	900	1080	1080	1080	1080	
対象指標			ア イ ウ	人	26000	27000	28000	29000	30000	30500	31000
成果指標			ア イ ウ	人	未集計	未集計	未集計	2500	3000	3250	3500
上位成果指標			ア イ ウ	人	未集計	未集計	未集計	5000	6000	6500	7000

合志市

事務事業名	コミュニティ指導員配置事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	---------------	-----	----------	-----	-------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等					
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？					
平成7年4月に旧西合志町のコミュニティ活動振興のため、5つの各コミュニティに配置された。					
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？					
当初、1コミュニティに1名の配置であったが、須屋地区の人口が格段に多く、生涯学習活動のニーズに応えるべく妙泉寺体育館の建設もあり、学習講座数が増加する須屋地域のコミュニティには平成18年度から2名配置となった。					
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？					
コミュニティ活動の拠点施設のうち、須屋市民センターは建て替えが実現し、地域のニーズに応えられたが、施設が手狭で老朽化している黒石、野々島の施設改善を要望する声が地域住民から多い。					

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】 指導員の配置は、コミュニティ活動の振興、市民の生涯学習活動の推進につながるため、政策と結びつく。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】 指導員の配置により、各コミュニティ活動を特色あるものにしていくことでよりよい生涯学習活動の推進が出来るので、妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象、意図とも現状では適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 旧西合志町は伝統的にコミュニティ単位での生涯学習活動を推進してきた経緯があり、地域住民もこの活動に多く参加している。指導員をはじめ、地域住民の力を合わせて作られていくことが多いので、これ以上の成果は得がたいと思われる。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 ①コミュニティにおける生涯学習活動が沈滞する。 ②各学習講座の施設利用調整が出来ず、施設の有効利用が損なわれる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 職員の経験や陸量によって左右される事業であるため、指導員の資質向上のみにより成果が上がっていくと思われる。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 職員の経験や陸量によって左右される事業であるため、指導員の資質向上のみにより成果が上がっていくと思われる。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 嘱託職員により事業を行っており、人件費も必要最小限であるため、削減は困難である。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 指導員は、コミュニティ活動全体のために業務を行っているため、公平公正を旨としている。

合志市

事務事業名	コミュニティ指導員配置事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	---------------	-----	----------	-----	-------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)

旧西合志町のコミュニティ単位による生涯学習活動、地域づくり活動は、コミュニティ指導員の努力によるところが大きく、地域での特色のある取り組みが展開されている。
合併により旧合志町との手法の違いも浮き彫りになっているが、永年の伝統があり、今後もこの地域作りは変化させるべきではないと思われる。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☒ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上		○	
	維持			×
	低下		×	×

(5) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
- ☐ 一部記述不足のところがある
- ☐ 記述は十分なされている

② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
- ☐ 一部に客観性を欠いたところがある
- ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

(4) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(5) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(6) その他2次評価会議で指摘された事項